

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のまま)です。

Stay Smile 高原のアーティストを訪ねて

東に八ヶ岳、西に入笠山を仰ぎ見る、さわやかな高原の町、富士見。この地に生まれ、または惹かれて制作する、素敵なアーティストたちを紹介します。

【今月のアーティスト】 河野 史尚 (こうの ふみひさ) さん 陶芸作家・富士見町在住

河野史尚さんは兵庫県の出身で、沖縄県立芸術大学を卒業。10年ほど前に奥様と富士見町に移住し、4年前にできた工房で作陶に打ち込んでいます。イタリアのヴェネト州に修業のため住んでいたことがあり、イタリアの人々の地域や家族を大切に生きる生き方、週末にスキーやサイクリングをして仲間と共に人生を楽しむライフスタイルに深い共感と憧れを覚えたといいます。

空気がさわやかな高原で、近くに高い山があり、冬にはスキーができる…、そんな希望の環境にピッタリだったのが、信州の富士見町でした。八ヶ岳のような、関西では見たことのない山々があり、飾らない素敵な人がたくさんいる富士見町が、住んでみて、ますます好きになったそうです。また、八ヶ岳山麓は、縄文時代から土器が作られていた場所であり、同じその地で焼き物を焼くことは素晴らしいことだと語ります。冬は陶土や釉薬が凍ってしまい、制作ができないなど、この地ならではの苦労があります。でも、富士見の土を使って焼いた作品は、陶芸用の土では表現できないような、思いがけない味わいが出るそうです。

河野さんが作る器は、シンプルなデザインで使い心地の良いもの。器の他にも、オブジェやランプシェードなど、作品はバラエティーに富んでいます。大好きなキノコ採りから着想を得た「キノコの家」は、キノコの虫食い穴を窓のイメージにして、間伐した木材を屋根にしたユニークな作品です。「カエルウオ」や「ウミウシ」は沖縄に住んでいた頃、慣れ親しんだ海の生き物をテーマにしたものです。河野さんの手から生まれる、様々な作品たち。これからも楽しみです。



▲カエルウオ、ウミウシ
2013年



▲キノコの家
2014年



▲制作の様子
© 雲歩窯

【Information】 河野さんの作品は、陶芸工房「雲歩窯」(☎:0266-62-7884/住所:富士見262 1-10)でご覧いただけます。訪問される際は、なるべく事前にお電話にてご連絡ください。その他、町内のショップ「テーブルランド」と「ストーブ生活」でも手に取ることができます。また、プレゼントや引き出物の制作もしています。

文：前島孝一(小海町高原美術館館長・清里フォートアートミュージアム職員) 富士見町富士見在住
facebook <https://ja-jp.facebook.com/koichi.maeshima.1>

Stay Smile 美術を楽しいと思う気持ち

富士見中学校 美術部



▲山梨県立美術館見学

毎年いろんな作品ができます。階段装飾は、毎年3年生が主体となり作っていきます。そのため、その年の3年生の個性を表すような作品ができます。

今年は毎年1つである階段装飾を2つに増やす予定です。また、1つはどんどん変化していく階段装飾です。ぜひ、その違いを見つけてみてください。この様に、私たち美術部は自由な雰囲気の中、地道ながら様々な活動にチャレンジしています。ぜひ白鈴祭での展示も見に来てください。

(美術部部长 大日方裕実)

私たち美術部は、1年12人、2年6人、3年7人、計25人で活動しています。月に一枚、テーマに沿った作品を作る以外活動は自由です。美術に関していけば何をしてもOKです。例えばカメラを持って校内を周りたり、ふっとび写真(※写真1)を撮ったりと、いろんなことにチャレンジしています。

夏には、オッコ祭り祭りの祭り絵制作や、本校の文化祭である白鈴祭に向けて階段装飾作りなど、特別な活動があります。祭り絵制作は、ぬり絵タイプと自由に描けるタイプがあり、好きな方を自分たちで何人かのグループを作って描きます。



▲「私の愛、う〜ん、届け!」(※写真1)

Stay Smile 日本赤十字活動資金(社資)募集へのご協力ありがとうございました

問 住民福祉課 社会福祉係 ☎62-9144

『愛の力を信じている』をスローガンに活動している日本赤十字の活動資金募集を本年度も実施させていただきましたところ、住民の皆様方をはじめ、各区長・自治会長様のご協力により、おかげをもちまして次のとおり社資をお寄せいただくことができました。誠にありがとうございました。

平成26年度 募集結果 1,861,236円(平成26年7月10日現在)

お寄せいただいた社資は、日本赤十字社長野県支部へ送金し、国内外の災害救護活動のほか、各種講習会の実施や救護看護師の養成等、数多くの人道的な活動に役立たせていただきます。富士見町においても、災害救護活動や家庭看護法等の講習会普及事業などに活用されています。



日本赤十字社



赤十字活動へのご協力に感謝するとともに、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

● 7.9南木曾町豪雨災害義援金受付について

日本赤十字社富士見町区分では、平成26年7月9日に発生した南木曾町豪雨災害により、被災された方々を支援するため、義援金の受付を行います。

富士見町役場1階ロビーに募金箱を設置しましたので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

【受付期間】 平成26年7月16日(水)～8月29日(金)

※義援金は南木曾町に設置される災害義援金配分委員会を通じて、全額被災者へ配分されます。
(東日本大震災被災者義援金も引き続き受け付けておりますので、併せてよろしく申し上げます)

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの領分を守るために~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

「体を動かす」ということ

子どもが、初めて見るものに興味を持った時、どうするでしょう？

まずは、手に取ろうと体を動かします。手だけ動かせば届くか、体を少し寄せないと届かないか、足で歩いて行かないといけないうか、判断して体を動かします。そして、動いた結果、手に取ることができ、触ったり、赤ちゃんなら舐めたりしてその物を知ろうとします。きっと無意識にその感触を頭の中のファイルにインプットしているでしょう。また、興味を持った物を知ることができたことに満足感を覚えるでしょう。

「体を動かす」ということには、「感覚を育てる」と「心を育てる」ということがセットになっています。子どもには、体を動かすことができるいろんな環境があるといいなと思います。それも、いつも同じ動きをするのではなく、また大人の押し付けで動かすのではなく、子どもが楽しんで主体的に全身を駆使して動かせるような環境です。

外あそびの中にはそれが保障される要素がいっぱいあります。いろんな動きを遊びの中で自然にすることで、「しなやかな体」になります。しなやかな体が育つと同時に、「豊かな感覚と心」が育ちます。

小さなころから前向きに「体を動かす」ことをたくさん経験した子どもは、「行動力」「創造力」が体の中にたくさん蓄えられていくでしょう。

